



特集

産学連携の現状とこれから

超学際的産学連携 ————— P.2

『大学等発ベンチャー創出支援事業
(大学発ベンチャー予算)』に思う。 — P.3

win-winの産学連携 ————— P.4

知的財産権制度について ————— P.5

産学イノベーションセンター研究開発室から

有限会社 あいづ・ジャパン ————— P.7

会津大学発ベンチャー企業紹介 ————— P.10

株式会社シリコンゲート

株式会社ウェルビット・コンサルティング

UBIC-INFORMATION

今後の講習会の予定 ————— P.11

ご利用案内/活動報告 ————— P.12



平成15年度
3DCG作成セミナー
受講生作品



会津大学産学イノベーションセンター
〒965-8580 福島県会津若松市一箕町鶴賀字上居合90
TEL : 0242-37-2776 FAX : 0242-37-2778
E-Mail:ubic-adm@ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp

会津大学産学イノベーションセンターのインターネットホームページアドレス
<http://www.ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp>

超学際的産学連携

平成16年4月に、福島市のコラッセふくしまに「超学際」という看板をかけたNPO法人を作ることになりました。「超学際」というのは変な名前でも違和感があるかと思いますが。例えば私が経験した例では、国の研究の審査の中で沖縄の珊瑚が白くなって死んでいく。その原因となるのは赤い土が川に入ってくることで、その研究をしたいというご提案がありました。赤土が川に入ってから珊瑚が死ぬまでのプロセスをどうやって科学的に解明していくかというのが研究なので、環境問題を議論する上で大変有意義なことだとは思えます。しかしそれだけでは原因なる赤土をどうやって止めるのかというプロセスの対応を研究することが入っていません。その研究の提案は本来「文理知融合」、文系の知恵と理系の知恵をあわせて研究するというテーマなのですが、その原因となっている赤土をどうやって止めるのかという、行政サイドの知恵が入っていないわけです。そういう意味でどうしても大学中心の研究というのは自分の大学の先生が得意なところのみにフォーカスを当てているので、それで具体的に成果を社会に戻せるかというどうしても距離が遠いわけです。そこには赤土の流出を止める、自治体や地元の活動が繋がってこないといけません。このような問題を乗り越えようということで「産官学民」全部が入った活動ということで、「超学際」というちょっと変わった名前を付けた研究機構を考えました。この「超学際」というのは一昨年の10月に佐藤知事と一緒にドイツで自然エネルギー環境に関するシンポジウムをブランデンブルグ工科大学と一緒にシンポジウムをやりましたが、そのときの会議の副題が「Transdisciplinarity」で、県庁で「超学際」と訳してくれました。従来の学際ではなくて、学問の間の壁を突き破って活動を進めると言うことだと考えています。

このような考え方は、常々一般の方からご指摘を受けている「大学は敷居が高い」ということの少しは解決につながるのではないかと考えています。会津大学の産学連携活動では、「IT城下町」というキャッチフレーズで一生懸命売り込んでおります。しかし敷居はなかなか低くはなりません。一方、昨年秋にひよんなことからスローフードの活動をお手伝いすることになり、一度会津大学内で話す機会があったのですが、それが縁で、いろいろな所から声をかけて頂けるようになりました。先頃もある団体の婦人会から声をかけて頂きました。

日銀の福島支店の昨年春の報告では、会津地域では会津大学の卒業生や大学関係者を中心としたソフトウェア会社は、10社以上と書いてありますが、実際は20社あります。これらは行政や地元経済家と一緒にあって、小さいながらも新たな産業の集積の芽が育ちつつあるということでした。こういう客観的なデータで会津大学の活動を評価していただいて我々も感謝しているのですが、会津地域の経済情勢は大変厳しい情勢です。スローフードをキーワードにして活動を考えますと、幸いにも会津大学には全国的にも大変立派な実績を示している会津短期大学があります。食文化と漆器という会津固有の産業を繋ぐお手伝いを通して会津大学が幅広く、「超学際的」に市民活動の中に参加させていただき、経済活動の改善に貢献させていただきたいと考えていますので、是非ご協力をお願いいたします。



会津大学副学長・産学イノベーションセンター長
角山 茂章

『大学等発ベンチャー創出支援事業 (大学発ベンチャー予算)』に思う。

去る2月上旬、会津大学が獲得した大学発ベンチャー予算の中間評価を文部科学省で受けました。この予算の特徴は、既存の企業と協力して、最終成果物が大学発の「起業」という極めて特異な予算です。毎年その技術開発の進捗状況に加え、終了後のビジネスモデル実現可能性が評価されます。これまでに開発中止となるプロジェクトも続出し、激戦の競争予算でもあります。今回我々は、魏研究室の誇る生体モニタリング技術と携帯電話の技術を応用した実用的な生体モニターをコア技術に、さらにヘルスケアビジネスモデルを合体させた提案をしました。この文章がUBIC NEWSに載る頃には結果が出ていると思われませんが、願わくば、予算獲得が出来ることを祈るものであります。

さて、今後このような大学発ベンチャーや産学連携予算が増えるはずですが、今後大学の研究者は、自らの研究の商品価値を意識せざるをえなくなるでしょう。また地元の企業等、大学外のネットワークを持つことが重要となります。本予算は、大学が地域に開かれたものにし、商品性の高い研究開発の必要を示唆しています。

国全体の構造改革が進行しています。規制緩和や特区構想は産業構造変化の中心で、産学連携による産業シーズによる新産業、雇用の創出が大きく期待されています。当然その変化の中心は、技術開発、知識、人材の宝庫である大学です。その文脈に平成16年4月の国立大学・大学法人化が行われ、引き続き会津大学、福島県立医科大学などの公立大学の独法化が予定されています。

この独法化の本質は、大学マネジメント改革です。人、組織、予算が新しい枠組での運用が試され、大学の研究予算も、従来型の定型消費型の年間予算でなく、獲得型の競争性プロジェクト予算という形が多くなることでしょう。その意味では、今回の予算獲得の経験は、会津大学にとっても大きなラーニングとなることでしょう。今後大学研究者は、自らの研究意義の説明責任が発生します。また研究の本質を異なりませんが、プレゼンテーションの説明技術も必要となります。

さて大学発ベンチャーでの評価はかなり現実的で厳しいものでした。評価者の中には企業の技術者やベンチャーへの投資家が出て、本格的なビジネスの視点で評価を受けました。

「起業＝新規技術＋ビジネスモデル＋ α 」この公式は極めて重要です。この式の言わんとするところは、新規技術だけでは起業は出来ません。起業にはビジネスモデルが必要なのです。さらに $+\alpha$ これがいわゆる起業の障害、デス・バレイと呼ばれる起業化阻害要因です。これらを克服するのが、マーケティングや人材、資本だったり、それぞれの固有の課題の解決が必要なのです。

「企業＝起業＋運営継続性」次に企業となるには、持続する、成長する仕組みが必要です。これこそ事業のビジネスモデルでなく、会社のビジネスモデルです。企業はゴーイング・コンサーン（継続存在することに意義が有る）社会的存在意義ということです。

ご存じのようにUBICは産学連携の支援の組織です。まずは大学内のシーズを発掘し、それを産業化するのが初期の目的でした。現在は地場企業、特に地元企業の技術開発ニーズを、大学の研究へ組み込む事や、さらに踏み込んで、ビジネスモデルの構築や起業支援、克服すべきデスバレイの乗り越えにも、大きな力を発揮しなくてはなりません。イノベーションの盛んな北欧では、イノベーション発生装置（ジェネレーター）としての大学機能は充実しています。企業の方々の協力のもと、会津大学、UBICはさらに発展、機能強化して行かなくてはならないと感じる次第です。皆さまのさらなるご支援をお願いいたします。



会津大学産学イノベーションセンター
客員教授 田中 伸明

産学連携の現状とこれから

win-winの産学連携

2003年2月に文部科学省から産学連携コーディネーターとして会津大学に派遣されてから早くも1年が経過しました。産学連携コーディネーターには ①大学における優れた研究成果の発掘 ②研究成果の権利化のためのアドバイス ③大学の研究成果と企業との共同研究コーディネート ④大学の研究成果の事業化に向けたアドバイスと支援 ⑤大学の研究成果の技術移転という5つの使命があります。産学連携では大学の研究成果を企業が利用することにより新しい産業が創出され、これにより産業が活性化されることが期待されており、コーディネーターは大学と企業との橋渡し役です。

今までの私の行動を振り返って見ますと、まず、①大学における優れた研究成果の発掘では、教員の研究室を訪問して研究内容、研究成果についてインタビューを行い、事業の種（シーズ）となりそうな研究成果を調査しました。研究室訪問は今後も続けたいと考えます。②研究成果の権利化のためのアドバイスについては、教員あるいは企業からの特許相談を受け、助言しました。③大学の研究成果と企業との共同研究をコーディネートするためには企業が何を必要としているか（ニーズ）を把握する必要があります。このために企業訪問を行い、ニーズを調査しました。訪問先は会津若松市、喜多方市、郡山市、福島市、いわき市です。ニーズとシーズとがマッチングした時が共同研究のスタートとなりますが、正直なところマッチングは容易ではないと感じました。もちろん企業訪問は今後も最重点項目として継続します。④大学の研究成果の事業化では、現在、外国人教授の起業を支援しています。教授と共に将来顧客となりそうな所を訪ねて需要の聞き取り調査を行い事業計画に反映させる一方、在留資格の変更という外国人ならではの課題をクリアする必要もあり、本件ではいろいろ勉強させられました。⑤大学の研究成果の技術移転は③と同じ方法で今後取り組みたいと考えます。以上のほか、技術相談の窓口、各種フォーラムの開催も行っています。技術相談ではこれが共同研究に発展した事例もあれば、共同研究の俎上に乗らない場合には相談者に別の企業を紹介し解決に至った例もあります。

産学連携の最終ゴールは産業の活性化です。企業と大学との共同研究の結果、あるいは大学から企業への技術移転の結果、企業が新しい事業を始めるなどして企業が活性化することが期待されています。産業が活性化することによりその収益の一部が大学に還元され大学も潤う、これが産学連携の理想像です。この連鎖が実現すると産学連携は教育、研究とならんで大学の重要な役割の一つになります。2004年4月からは国立大学が法人化されます。その2年後には会津大学も法人化される予定です。これに伴い産学連携コーディネーターの使命も少しずつ変化するかもしれません。企業も大学も「産学連携をやって良かった」と思うような産学連携、企業も大学も産学連携によりプラスの効果を楽しむ「win-winの産学連携」をコーディネートし、産学連携を会津大学経営の柱としたいものです。



産学連携コーディネーター
本杉 常治

知的財産権制度について

知的財産権とは

■ 特許制度の生い立ち

むかし昔の話ですが、粘土質の土の上で焼き火をした人がいて、その跡が固くかたまっていたのを見て、土器の発明がされたそうです。縄文時代の古人に始まり、歴史を振り返ると、古代から現在に至るまで人類の歴史は、数多くの人々の様々な知的な活動の積み上げといえましょう。

こうした人類に与えられた知恵の働きは多くの成果を生み出し、産業や技術の発展を促すと共に人々に多くの幸せをもたらしました。このような知的活動を促進するためには、知的生産物の保護と活用が必要になります。これらの知的財産をある条件の下で財産権として認めるのが知的財産権です。

知的財産を保護する制度の生い立ちを見てみます。



知的財産管理アドバイザー
重田 暁彦

■ 自主技術の保護

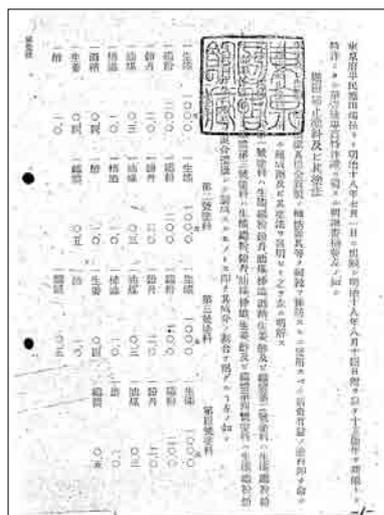
知的財産権の代表といえる特許は「特に許す」と書かれます。新しく知的に創造したものに、一定の期間などを限って、独占権を与える制度ができました。こうした保護制度のない時代には、知的財産は専ら秘密によって保護されていました。刀鍛冶などに代表される技術は、師匠から弟子へ技術や秘伝として伝承が行われるのみでした。

ひどい例としては、兼六園の噴水があります。兼六園の噴水は、水が上の池から下の池に落ちる落差を利用するものでした。噴水が完成すると、その技術者は、秘密保持のために殺されてしまったといわれます。これでは技術や文化の発展にはつながりません。

特許は英語ではPatentと書きます。これには公開するという

特許第一号

日本特許の第1号は掘田瑞松の錆止め塗料です。生漆に鉄粉を入れ、鉛や柿渋を混ぜた塗料でした。軍艦の底に塗布すると効果が抜群で、横須賀では会津の漆器職人も動員され、大いに活躍したそうです。



意味があります。特許制度の基本は、技術を公開して明らかにし、その技術をもとに更なる発明を生み出し、産業の発展を促すことにあります。

■ 知的財産立国

現在政府では国をあげて知的財産を重視する政策をとっています。知的財産立国として知的財

知的財産権制度について

産の尊重と知的財産の活用で経済活動を活発にしようとする取り組みです。つまり、みんなの知恵を活用して研究開発をすすめる、その成果である知的財産を何らかの形で法的に保護することで権利とし、さらに権利を活用して経済を活発にし、その利益を新たな研究の促進に生かそうとするものです。

我々は何らかの形でこうした知的財産活用に貢献することが求められます。

人間の知恵を生かし知的資源を活用して、豊かな社会を作りたいものです。

アメリカでも知的財産権を重視し保護を強化するプロパテント政策を反映して、知的財産権を活用しています。アメリカの経済的地位の低下や本業の不振を、ストックしてある知的財産を武器に再び高めようとするものです。こうした動きは、特許実施料の高騰を招き、一層知的財産権の活用に拍車をかけることになっています。

■ 発明とは

知的財産は特定な人の物ではなく、チャンスは誰にでも与えられています。頭を使い、他人がやっていない新たなアイデアを考えた人に幸福をもたらすのです。

特許になる発明とはどのようなものをいうのでしょうか。

特許を天守閣に例えると、いくつかの石垣に支えられて、初めて成立するのです。

まずは「発明であること」、これは物理学の法則に則っている技術としての思想であるかどうかです。次に「産業に利用できるか」が問われます。産業の発展が特許制度の目的だから当然です。そして一番初めに考えついた人に独占権（出願から20年間）を与えます。これは特許庁に最初に出願手続きをした「最先」の人に与えられます。

そして一番重要なのが「新規性」で、今まで誰も考えつかなかったことが条件になります。さらに新しいだけでなく、一般的に発明の技術分野に精通した人（当業者）であれば簡単に考えつく発明でないことが求められます。これは「進歩性」といいます。これらの条件を満たすものが特許に該当するのです。



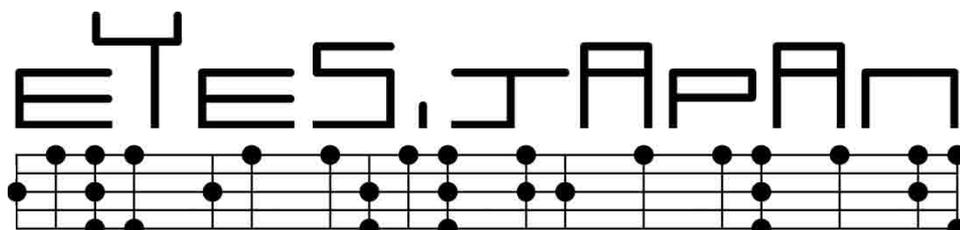
地下足袋

ゴム底の地下足袋があります。足袋にゴムの底をつけて滑らず、中に水が入らないようにしました。実用新案を取得したのは、石橋徳次郎さんです。久留米で商売を始め、権利をとって大企業が参入できないようにしました。後のブリヂストンの創業者です。社名には石・橋、ストーン・ブリッジを逆さにしてブリッジ・ストーン、ブリヂストーンと名付けたのだそうです。

発明を意識するためには、いつも現象をしっかり把握することが重要です。当初ご紹介したような、焚き火の跡を見て、発明に展開できる「感ずる目」を磨くことが大切です。いつも発明を意識することは、訓練で習得できます。

コツは多くの発明を見ることです。発明の対象となるテーマに関連した技術分野で、どの程度のアイデアが特許になっているかを見ることが、そうした見る目（目利き）を養う近道となるのではないのでしょうか。

[以上]



会社概要

名 称：有限会社あいづ・ジャパン
設 立：1995年9月（1997年4月法人化）
代表者：山寺純（元会津大学事務局翻訳通訳員）
住 所：本 社：〒965-0872 福島県会津若松市東栄町9-15 NTT東栄町ビル2F
 研究室：〒965-8580 福島県会津若松市一箕町鶴賀字上居合90番地
 会津大学産学イノベーションセンター内研究開発室1
資本金：300万円
従業員：22名（社員5名/国内外プロジェクトメンバー17名）
Tel：0242-38-2023 Fax：0242-38-2080
URL：http://www.nowhere.co.jp/（会社サイト）
http://www.web3dnews.org/（Web3D/CGコミュニティーサイト）
http://www.mocapdata.com/（Mocapデータダウンロードサイト）
http://www.aizu.com/（地域向けポータルサイト）

ビジョン

"Any sufficiently advanced technology is indistinguishable from magic（優れたテクノロジーは魔法と区別がつかない）。" by Arthur C. Clarke

「2001年宇宙の旅」の著者でも知られるArthur C. Clarkeの言葉です。現在のコンピュータやネットワークの進化、そしてそこで発生している新しいデジタル・カルチャーを予言するかの様な言葉です。人々に夢を与えたディズニーの様に、魔法の様なデジタル・カルチャーを創り出すのがあいづ・ジャパンの使命です。

事業内容

- ・ Web 3Dを含む3Dコンピュータ・グラフィックス制作
- ・ WWWサイトやDVD等のハイパーメディア及びデジタルアーカイブ制作
- ・ ソフトウェア研究開発及びシステム管理

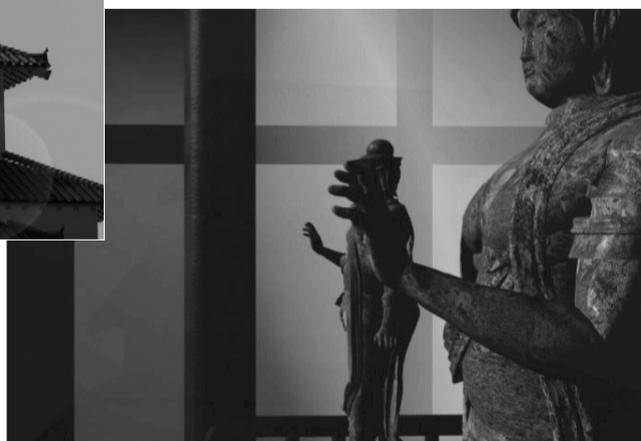
現在までの歩み

「あいづ・ジャパン」は、日本で最初のコンピュータ・サイエンスの単科大学、会津大学（URL <http://www.u-aizu.ac.jp/>）の元事務局通訳通訳員と現役の学生たちで1995年9月に設立され、1997年4月に『有限会社あいづ・ジャパン』として法人化されました。その先進性は、1995年9月から運用しているWWWサイト（URL：<http://aizu.com/>）をはじめ、現在に至るまで、様々なWWWサイト構築や先進的なプロジェクトを多数手掛け、その活動はNHK、日経新聞、英字新聞等、多数のメディアで紹介されてきました。それはまさ

産学イノベーションセンター研究開発室から

に、國井初代学長が開学時提唱した会津シリコンバレー構想の中心になるような本格的ベンチャー企業を目指すという夢を、現実のものとしています。

1996年に手掛けた、インターネット上で仮想的に農作物を育て販売するという『バーチャル農業』プロジェクトは、TBSの報道特集等でも紹介され、海外からも注文を頂きました。また棚倉町で行われた首都機能移転問題を考えるFIT構想シンポジウムで、新国会議事堂の3次元CGを制作し高い評価を頂きました。またこの年から現在に至るまで世界最大のコンピュータ・グラフィックスの祭典SIGGRAPHにも参加しています。



1997年は、東北電力様と共同で只見川水系のダム放水量決定システムの研究開発や、会津本郷町商工会様へ世界で初めての3次元VRML技術を使ったリアルタイム陶芸システムを制作しました。

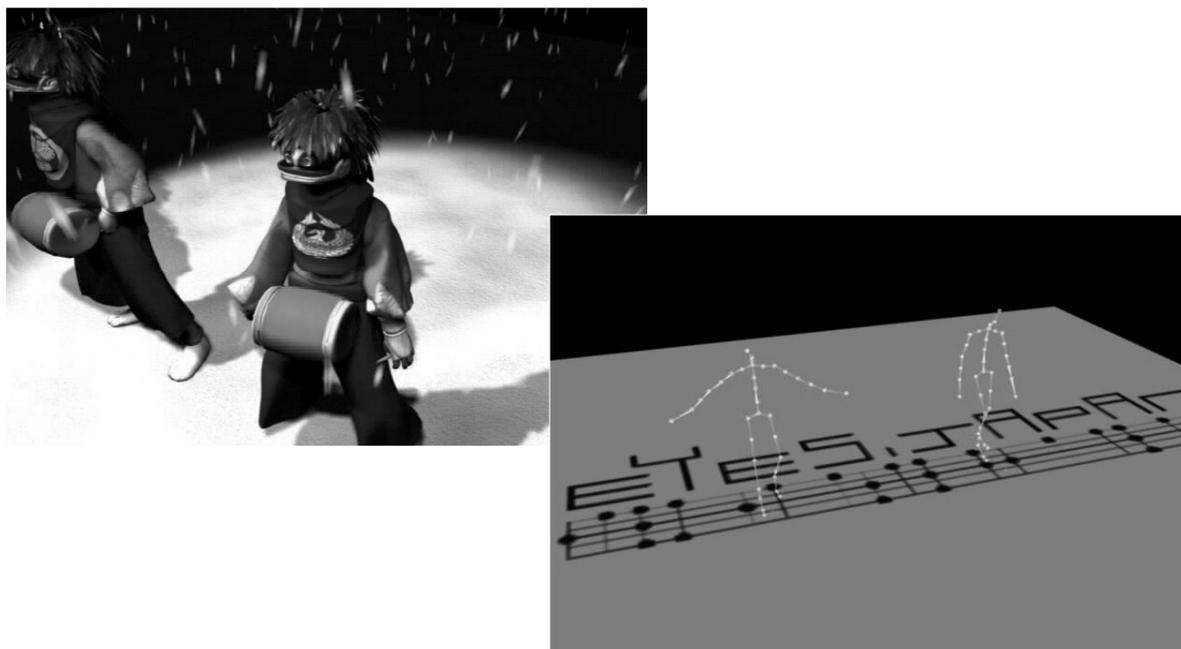
1998年は、郵政省、通産省等の各種公募に、会津大学ヒューマンインターフェイス講座、形状モデリング講座と共同研究提案を致しました。またRealVideoを使ったインターネット上でのビデオ配信なども行い、東邦銀行様ホームページにて平成10年度福島県高度情報化推進協議会インターネット研究部会ホームページコンテスト操作性の部優秀賞等も受賞致しました。

1999年は、会津若松市市制百周年事業の一環として、インターネット連動型のマルチメディア市史CD-ROMを発表致し、さらに100年前の絵図を元に歴史家や宮大工の方からアドバイスを頂きながら、会津藩の家臣であった西郷頼母邸、会津鶴ヶ城、国宝の仏像の3次元コンピュータ・グラフィックス制作を行い世界最大のコンピュータ・グラフィックスの祭典であるSIGGRAPH'99にも、アニメーション部門でエントリーし、デジタルコンテンツグランプリ東北'99では奨励賞を受賞致しました。また日本コムシス様へのソフトウェア開発や東邦銀行様のi-Modeバンキングシステム開発、JCBのライセンサー様や保険代理店様へのSSLを使ったセキュアサーバ構築、運用も行いました。

2000年は、福島県産業振興センター様の産学官共同研究助成事業に選ばれた他、県立博物館様の無線LAN

によるインターネット環境整備、NHK福島放送局様の番組タイトルCG制作や、数百万アクセスの大手エンターテインメントグループ様のi-Modeサイト立ち上げに携わらせて頂きました。

2001年にも、産学官共同研究助成事業に2年連続で選ばれ、県のサポートを受け、北会津村の小松地区の彼岸獅子舞のデジタルアーカイブ事業を行い、インターネット連動型のハイブリットDVD制作、無形の踊りのモーションキャプチャー、Shockwave3D制作を行いMacroMedia社のSite of the Week にノミネートされました。



2002年には、制作したCGがAQコンテンツコンテストで準グランプリを獲得し、国の緊急雇用対策で歴史再現CG制作トレーニングを含む会津本郷町様のデジタルアーカイブ事業を行いました。またドイツのデュッセルドルフ応用科学大学からインターンシップ生を6ヶ月受け入れ、国際的な技術交流も可能にしました。

2003年には、アメリカで行われた世界最大のCGの祭典であるSIGGRAPH2003EXPOのAnark社ブースであいづ・ジャパンで制作した3Dコンテンツが展示され、国の構造改革制度の目玉である福島県知的創造開発特区企業の認定を受け、引き続きドイツから研究者を招聘し、福島県知的クラスター形成事業に選ばれた「モーション・キャプチャーを使ったヒューマン・モーション・ライブラリー及び医療従事者のモーション・ライブラリー」の研究開発を会津大学産学イノベーションセンターで共同で行いました。また2004年春に公開が予定されている会津の鶴ヶ城の復元CG等も手掛けました。

研究開発及びコミュニティへの貢献

会津大学だけではなく、アメリカやドイツをはじめ、世界中の研究者だけではなく、宮大工、歴史家や医療従事者の方等とも技術交流を積極的に進めており、CGやハイパーメディアを使ったお城や国宝の仏像、また伝統芸能の踊りといったデジタル・アーカイブ事業だけではなく、Creative Commonsライセンスで1,000近くのモーション・キャプチャー・データをインターネットで公開したり、Web3DやCGに関するコミュニティサイトを運営し、オープンソース/CGコミュニティへの貢献も行っております。

会津大学発ベンチャー企業紹介

株式会社シリコンゲート
代表取締役：油井 宏昭
福島県福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま6階
TEL：024-525-4053 FAX：024-525-4069
URL：http://www.sigate.com E-mail：info@sigate.com



株式会社シリコンゲートは平成15年8月に設立したばかりの新しい会社です。弊社はまだ一年たっていない会津大学大学院発学生ベンチャーです。会津大学大学院発なので会社のロケーションは会津にあるのかというと、そういうわけではなく、ロケーションは現在、福島市のコラッセふくしま6階にあります。

会津大学大学院で会津大学院生として研究するかたわら、一方でベンチャー企業の企業家として会社を経営しております。会津大学にはベンチャーを支援するUBICを始めとすると経営を支援する施設もあり、また大学にも先生ばかりでなく生徒も優秀な人材がたくさんいます。その結果として会社にとっても非常にプラスになることがあります。まず、ソフトウェア開発で先生方に相談できる環境もあり、企業としての力を伸ばすことができます。また経営面でもUBICなどに気軽に相談に行けるのもまた会津大学の魅力のひとつでしょう。また会津若松市には私が会社を設立する以前からたくさんベンチャーがあるおかげで、企業家の先輩方々に相談に行くこともできます。

弊社の事業は、APS事業を柱として事業を行っております。無償、商用のデータベースに関わりなくデータベースを扱っております。最近ではオープンソースのデータベースのカンファレンスやセミナーの主催を会津大学で行うことを視野に入れております。また弊社では自社ソフトウェアも開発しております。

業務内容は、以下のとおりです。

○ソフトウェアの開発

バイナリーデータ(ドキュメント等)をアップロードしデータベース上にデータを管理することができます。

○データベースに特化したウェブアプリケーション事業

ウェブアプリケーション絡みのデータベースの構築

株式会社ウェルビット・コンサルティング
代表取締役 甘泉 瑞応 (かんせん みずお)
福島県福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 6階
経営コンサルティング及びコンピュータソフトウェアの企画開発
TEL：024-525-4050
URL：http://www.welbit.com E-mail：fwre1041@mbinfoweb.ne.jp



私は、東京から5年前に仕事の関係で会津若松へ転動して来ました。そして、3年前、14年間勤務した都市銀行を退行し、会津大学大学院に入学してコンピュータ理工学を学んでいます。そして一方では、中小企業診断士という資格を活かして、大学や地域の産業支援機関などと連携しながら、地元企業への経営支援や大学発ベンチャー等の育成事業を行っています。また昨年の9月には、個人から法人成りをして株式会社ウェルビット・コンサルティングという会社を設立しました。

私が以前から興味を持っていたことに、「自らの起業」と「産学の橋渡し」がありました。そのためには、産(経営)と学(IT技術)の両方に精通するようになりたいと思っていました。また、勤務していた銀行では、主に融資業務を担当しておりましたが、いくら技術があるベンチャー企業であっても、資産や実績がなければ融資できず、一方で、自分ではIT技術の評価はできない、という矛盾も持っていました。

銀行での14年間は、会社や事業の経営を見るうえで非常にたくさんの方をとおして学ぶことができました。会社経営では、ヒト、モノ、カネが重要な3資源といわれていますが、銀行では、上場企業から中小企業、個人事業主までいろいろな業種の企業や経営者に接する機会に恵まれ、その意味では、カネやヒトの面から会社を見たり、経営のノウハウを学ぶことができました。14年間という年月は、遠回りしたようにも思われましたが、結局はほかでは得ることのできない貴重な経験を積むことができたように思います。今、大学在籍中や卒業と同時に起業する若者も増えてきていますが、私個人的な意見としては、一度社会に出て様々な経験や実績を積んでからでも、起業するのは遅くはないと思っています。

ただし、銀行での業務経験では、モノや技術を判断することへの強い限界を感じていました。特にIT分野は、歴史的にはそれほど古い分野ではないものの、範囲も広く奥行きも深く、勉強や経験が必要であると考えていました。「虎穴に入らずんば虎児を得ず」という諺があるように、自分が得たいと思っているものがあるのなら、自分からその領域に入り込むのが一番の方法です。大学院へ入り3年がたち、自らの研究や、産学連携や大学発ベンチャーの経営支援などを通して、いろいろな経験をさせて頂きました。また、実際に自分でも産学連携プロジェクトに参加したり、地元IT企業支援やインキュベーション施設の設定にも携わることができました。少しずつではありますが、この業界のことも理解できるようになりました。

昨年9月に会社を設立するに当たっては、新事業創出促進法(最低資本金規制特例)を利用しました。この特例制度は、最低資本金(株式会社であれば一千万円)未満でも会社設立が可能で、設立から5年に限り資本金が最低資本金未満でも良いというもの。この制度には賛否両論があるようですが、私がこの制度を敢えて利用して法人化しようと思ったのは、自分が会社に対して経営指導を行っている立場から、同じ経営者の視点から指導に当たることが必要であると思ったことと、この新しい制度がこれから起業を希望する人たちにとって非常にメリットがあるものだと感じたからです。そうであればまず自分が試してみようと思いました。新しいことにトライして、その経験を持って人に伝えることが、コンサルティングにとっては、一番の方法ではないかと思っています。

また、会津大学大学院に在学し、自らも研究を行っている立場から、将来的には、大学等の技術や研究成果などを社会へ向けて発信する仕組み作りなども行っていきたくとも考えております。会社の定款の目的欄にも、「ソフトウェアの研究開発」としっかり入れております。

最後になりますが、ここで、いつも応援してくれている家族や私のことを理解し支えてくださっている程子学教授に感謝の気持ちを述べさせていただきます。また、会津から本当の意味での大学発ベンチャーが育っていくこと、そして、そのことで私も何らかのかたちでお役に立つことができれば、というのが私の希望であります。

今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

センターでは、下記の講習会を開催します。

1 マルチメディア講習会

3DCG作成セミナー 「Shade」

◆日 時：平成16年6月22日（火）、23日（水）、24日（木）、25日（金）

4日間コース、各日とも10：00～16：00

◆場 所：会津大学産学イノベーションセンター セミナールーム

◆講習内容：

<概要>

3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）作成ツール「Shade」を使用して、簡易なCG映像制作技術を習得します。

「Shade」の基本的な操作法を学び、実際にコンテンツを作成します。

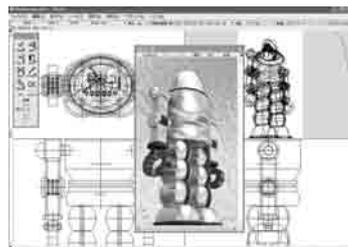
<内容>

・CGとは	（概要説明）	・3DCGの特長	（概要説明）
・モデリング	（オブジェクトの作成）	・サーフェイス	（反射や色の設定）
・レンダリング	（画像生成処理）	・演習	（コンテンツ制作）

◆受講料：4,000円

◆定 員：20名

◆申込期限：平成16年6月1日（火）必着



イントラネット基礎セミナー

◆日 時：平成16年9月15日（水）、16日（木）、17日（金）

3日間コース、各日とも10：00～16：00

◆場 所：会津大学産学イノベーションセンター セミナールーム

◆講習内容：

<概要>

イントラネット構築のためのLAN等の基礎技術を習得します。

ネットワーク技術や各種サーバの役割を学びます。

<内容>

イントラネットとは	・イントラネット	・グループウェア	
LANの基礎技術	・構成機器	・その役割	・LANの仕組み
各種サーバの役割	・メールサーバ	・Webサーバ	・ネームサーバ
LANの管理と運用	・システム管理	・ネットワーク管理	・データ管理

◆受講料：3,000円

◆定 員：20名

◆申込期限：平成16年8月25日（水）必着

プログラミング入門

◆日 時：平成16年11月17日（水）、18日（木）、19日（金） 3日間コース、各日とも10：00～16：00

◆場 所：会津大学産学イノベーションセンター セミナールーム

◆講習内容：

<概要>

Javaを通して、プログラミングの基礎を習得します。

Javaの特長及びJavaプログラミングの基礎を理解し、Java2SDKのセットアップからJavaプログラムを実行するまでの一連の流れを学び、実際に簡易なJavaプログラムを作成します。

<内容>

・プログラミングとは	（概要説明）	・Java言語の特長	（概要説明）
・プログラミング環境	（Java2SDK）	・Javaアプリケーションプログラミング	
・Javaアプレットプログラミング		・演習（簡易なプログラム作成）	

◆受講料：3,000円

◆定 員：20名

◆申込期限：平成16年10月27日（水）必着

2 ワンデー・トライアル

◆日 時：平成16年8月21日（土）、10月10日（日）、10月11日（月） 各日とも10：00～16：00

◆場 所：会津大学産学イノベーションセンター セミナールーム

◆講習内容：

<概要>

日ごろから、産学イノベーションセンターのシステムを使ってみたいとお考えの方、使ってみたくて使い方がわからないという方を対象に、センターのシステムの1日体験ができるという内容です。

- ・3DCG作成コース
Shadeを使って、3次元コンピュータグラフィックス作成を体験できます。
- ・デジタルビデオ編集コース
Premiereを使って、デジタルビデオから取り込んだ映像の編集ができます。
- ・デジタルカメラ編集コース
Photoshopを使って、デジタルカメラから取り込んだ画像を編集できます。
- ・ホームページ作成編集コース
ホームページビルダーを使って、ホームページを作成する一連の流れを体験できます。

などを予定しております。どうぞ、ご期待ください。

◆受講料：無 料

◆定 員：未 定

◆申込期限：未 定

※詳細につきましては、決定次第、別途お知らせします。

会津大学産学イノベーションセンター UBIC INFORMATION

センターご利用案内

案内

・会津大学産学イノベーションセンターは、産学連携のコーディネートや共同研究や起業化のための各種情報を収集・発信し、地域・企業へ開かれた産学連携の総合窓口として機能しております。

・産学連携フォーラムの定例的实施により、企業と教員の交流の機会を提供します。

・マルチメディア関連の各種講習会を開催し、地域の産業界にマルチメディア関連の普及啓発を図り、新たなビジネス展開と地域産業の振興を支援します。

・会津大学教員との共同研究開発を支援する施設としてご利用いただくための「研究開発室」や、一般の方に最先端のマルチメディア機器を開放しております。

・最先端のシステムを低料金でご利用いただけます。スクリーンを使ったプレゼンテーションやセミナーの開催、CGやサウンドの制作・加工・編集、人体の動きの3DCG化などにご活用下さい。

開館時間

午前8時30分～午後5時（夜間利用承ります。要予約）

休館日

土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始

無料コーナー

一般見学、3D立体映像上映、ハイビジョン等上映、インターネット体験

施設使用料

研究開発室	1室1年	420,000円
3Dシアター	1回	21,000円
セミナールーム	1回	21,000円
運動解析ルーム	1回	10,500円
サウンドクリエーションルーム	1回	1,050円
オーサリングルーム	1システム1時間	270円

※使用単位中「1回」とあるのは、次に掲げる時間です。
(1)8:30～12:30 (2)13:00～17:00 (3)17:30～20:30

メーリングリスト登録のおすすめ

会津大学産学イノベーションセンター各種講習会への参加・応募を希望される方は、住所・氏名、電話番号、E-Mailアドレスを明記の上、FAX、e-mail等でご連絡いただければ、詳細決定後、こちらからご連絡させていただきます。なお、メーリングリストへはUBICホームページからも登録できます。

活動報告

産学連携フォーラム

会津大学の研究内容の紹介や交流会を通じ産学連携の一層の推進を図るため、定期的に産学連携フォーラムを開催しております。今年度は11回開催しました。講演テーマは以下のとおりです。

- 4月 「最新ターボ信号処理技術が切り開く広域帯移動通信方式～フィンランドからの報告」 松本正オウル大学教授（第1回）
- 5月 「日仏の共同研究」 ミッシェル・イスラエル仏大使館参事官（第2回）
「ゲーム制作の現場から～ゲーム・プロジェクト運営とその諸問題について」 二木幸生マイクロソフト(株)リードプログラムマネージャー（第3回）
- 6月 「ナノスケールの生物過程の理論研究～脂質・蛋白質・ウィルス」 ルカーシュ・ピフル講師（第4回）
「アウトカム志向パスの構造と院内への組織的普及」 田中伸明客員教授（〃）
- 7月 「知的財産とは」 重田暁彦知的財産管理アドバイザー（第5回）
「知的財産立国の実現のため大学が果たすべき役割」

扇谷高男特許庁半導体機器審査長・京都大学客員教授（〃）

「UTOPIAプロジェクト：高齢者向けコンピュータゲームの可能性」 ジムターカスト アバティ・ダンディ大学教授（第6回）

9月 「F-MAIL 誰でも使えるメールソフトを目指して」 ニコライ・ミレンコフ教授（第7回）

10月 「これからの産学連携」 広中平祐京都大学名誉教授（第8回）

「漆の光変化の3次元グラフィックス」 ロマン・デュリコピッチ講師（第9回）

「デジタル文化遺産テクノロジー」 カール・ビルブランド助教授（〃）

11月 「漆の光変化の3次元グラフィックス」 ロマン・デュリコピッチ講師（第10回）

「ビデオ字幕表示システムの開発」 杉山雅英教授（〃）

「音響とロボット」 ジェ・ファン助教授（〃）

「細胞膜のコンピュータシミュレーション」 ルカーシュ・ピフル講師（〃）

「ペンとコンピュータ」 ジュン・ピル・シン講師（〃）

「心理エージェントを利用した学習システム」 程子学教授（第11回）

「ホームケアサービス支援システム」 魏大名教授（〃）

「CG映画、エンド・クレジット」 村川久子教授、M-Project（〃）

平成16年度も定期的に開催する予定です。



会津大学産学イノベーションセンター臨時開館

10月12日、13日の両日、会津大学祭に合わせて、産学イノベーションセンターを臨時開館しました。3DCGと立体音響を融合した研究紹介や、インターネット体験コーナー、1日体験セミナーなどを設けました。訪れた人たちは、係員の説明に興味深く聞いたり、自分でパソコン操作をしたりして、最先端のコンピュータ技術に触れていました。



3DCG作成セミナー

9月2日～5日の4日間のコースで、3DCG作成セミナーが行われました。県内外の会社員ら11名が、3次元コンピュータグラフィックス（3DCG作成ツール）「Shade」を使用した簡易なCG映像制作技術を学びました。

受講者は、CGの基礎、3DCGの特長、モデリング、アニメーションなどについて熱心に学習していました。表紙の画像は、このセミナーで受講生が制作したものです。

